文化庁月報

1982-10

No.169

【表 紙】

長寿寺本堂

解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

美しく豊かな言葉
内村直也 4

我が国の文化交流事業について
草場 宗春 7

あらためて、美術館とは
三木 多聞 11

報告

アメリカの写真界の現状に触れて 澤本 徳美 14

ウィーンを訪ねて 島崎 照代 16

文化政策に関するメキシコ宣言 18

文化庁ニュース

昭和57年度(第37回)芸術祭協賛公演決まる 22

大盛況の第6回日本民謡まつり 24

展覧会

イギリスのニードルワーク 26

国語シリーズ⑱「漢字の筆順」に関する問題 29

伝統芸能への招待⑥ 27
歌舞伎――その成立と展開――

国立劇場ニュース 31
彦山権現誓助剣 勧進帳

報告

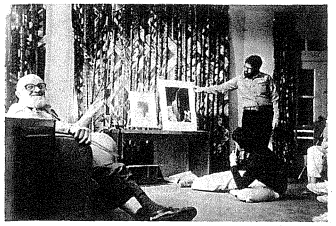
アメリカの写真界の現状に触れて

昭和五十五年度芸術家在外研修員
写真家・日本大学助教授
澤本徳美

昭和五十五年度在外研修員に選ばれ、「写真印画（オリジナル・プリント）の芸術性と価値の研究」というテーマのもとに、ニューヨークを中心としアメリカに一年間滞在する機会を得た。

一年間の研修を通して触れたアメリカの写真界の状況の一端を述べてみたい。

写真は周知の通り近代科学の発達に伴って出現し広がってきた表現方法・記録方法であり、いまだ百四十年余りの歴史しか数えることが出来ない。



アンセル・アダムス氏ワークショップにて
自作について語るアダム氏

その間、黒白からカラー写真へと、伝達能力も表現領域も拡張されてきたのであるが、根本的には銀塩感光材料に画像を固定したり、銀塩をガイドにして、色素による画像に置き換える方法であり、銀塩抜きには考えられないのである。

しかし、近年のエレクトロニクスの著しい発達は、写真の画像形成システムをも、大きく転換するであろう予測を可能にしてきたのである。写真はメカニズムそのものが、表現と直結しているために、その機能の発達や変化は、表現方法の拡張・変革を意味するとも言えるのである。したがって銀塩に代わる画像形成システムが現実化すれば、写真の芸術性も価値も変化し、ハードコピーとしての印画の意味も、変革を強いられることになるであろう。しかし、写真が迅速化、エレクトロニクス化の傾向を見せると、それに抵抗し、手作りの芸術作品としての価値を追求しようとする力も現れてくるのである。

例えば、アルビューメン印画（鶏卵紙）やプラチナ印画など、手作りの古い印画法のワークショップが盛んなこともその現れであろう。

もうひとつ、カリフォルニア州のヨセミテ国立公園で開かれたアンセル・アダムス氏のワークショップが大盛況なことである。アダムス氏は、最も美しい印画を作る写真家として有名で、今日、アメリカでオリジナル・プリントが芸術作品として高く評価されるようになったのは、氏のプリントに負うところが大である。氏の生み出したゾーンシステムという方法は感光材料の能力を活用し、銀塩印画紙で可能な最高の質の印画を作るシステムとして広く普及しているのである。

アメリカは南北戦争以来の写真による記録を、国立の機関等に大切に保存しており、今日では貴重な財産となっていることはよく知られているが、この写真を大切にする習慣が、芸術としての写真をも理解し、受け入れる土壌をつくってきたのである。それがヨーロッパにも先がけて、近代写真の芽がアメリカに育つ要因となり、一枚のプリントに、油絵や版画同様の芸術作品として価値を与えることに寛大であったのであろう。もちろん、古い絵画主義的写真への逆行と戦ったり、新しいメディアの出現と対応という矛盾を含んでいるが、アメリカの写真の伝統に対する理解の

懐は深く、健全な広がりをしているといえる。

このようなアメリカの写真に接し、日本の現状を振り返ってみると、多くの相異点を発見出来るのである。今日、日本の写真がハードウェアとして欧米に劣ることはほとんどないと言えよう。カメラ、感材、技術等優れている点も少なくない。しかし巨視的に写真を眺めると大きなギャップを感じるのである。

その第一は、美術館等のことであろう。日本でも数年前より写真美術館の設立や、美術館に写真の収集をする働きかけが、日本写真美術館設立準備委員会（代表渡辺義雄氏）を中心に動き出し、昭和六十一年に横浜市に設立される運びとなったが、現在写真を収集している機関は日本大学、東京工芸大学、大阪芸術大学など数少ない大学しかない。（写真先進国で国立の機関がないのはわが国のみである）しかし、現在アメリカで写真を収集している美術館や大学等の機関は五百か所にのぼるという。写真の性格上、純粋に芸術作品としてだけでなく、歴史的、記録的資料として収集されている機関も含んでいる。しかし歴史的な資料としての写真の中にも、芸術性の高い写真も少なくないのも写真の特徴であり、古い印画に秘められた現象の美しさや、

ジョージ・イーストマン・ハウス閲覧室

撮影者の創造力に触れ感動を受けることも多く、ほとんどの機関では、記録として、芸術としてと区別していないようである。

それらの中で、中心的な役割をしているのが、ロチェスターのジョージ・イーストマンハウス、ニューヨークの近代美術館、I・C・P・メトロポリタン美術館、ワシントンのスミソニアン博物館、ツーソンのアリゾナ大学などである。

中でも、イーストマン・ハウスは一九四九年より活動が始まったが、約八千人の作家の作品五十万点という世界最高のコレクションを誇っている。またニューヨーク近代美術館は、写真を近代芸術として、一九三〇年（一九二九年に開館し、写真部門は一九四〇年に設置された）から写真の収集が始められ、芸術が近代に入ったこと自体、写真は芸術として市民権を得たことである。と言う意見を実践してきたのである。

これらの美術館が、ただ作品を収集し展示するだけでなく、写真文化の広がりを促す啓もう運動や写真教育に活用されるようになっていることは注目すべきである。

例えば、中学校や高校で写真の歴史の講義を行ったり実技を指導したり、写真保存のシンポジウムや身体障害者に写真を教育するボランティアを指導する講習会を開催しており、展覧会も、ニューヨーク近代美術館での「写真以前」（一九八一年五月～七月）やメトロポリタン美術館での「ダゲール以後」（一九八〇年十月～十二月）のように、美術史の中での写真の位置や美術との関連などを理解させようとする企画も多いのである。このような努力が、写真を文化として広く一般社会に浸透させる原動力のひとつになっているのであろう。

もうひとつ、わが国と異なるのは、写真教育システムの充実である。小・中学校から写真を国語や社会、理科の教科に組み入れ、言語と映像の違いの認識、社会の観察と記録、写真の社会的働きなど教育しており、高等教育では芸術の方法としてやジャーナリズム、社会学のコースとして組みたてたり、考古学、人類学、生物学の学科でも写真の講座を必須としている大学もあり、学部で写真のコースを持たない大学でも修士課程の専攻に組み込まれていたり、写真史や写真芸術学で博士号を取得出来る大学（プリンストン大学、ニューメキシコ大学、ボストン大学）もある。

以上のような写真に対する姿勢が、写真を文化として広く浸透させ、前述の歴史的背景と共に写真を受け入れる社会の基盤の大きさになっているのであろう。

編集後記

○十月号をお届けします。本号は、内村直也先生の「美しく豊かな言葉」で巻頭をかざることができました。指摘されてみると、我々の身近にも味わいの深いことばのあることに気づかされます。文化庁では、国語を大切にし、美しく豊かな言葉の普及を図るため、言葉の問題をテーマとしたビデオテープを作成し、視聴覚ライブラリーなどに配布しています。ぜひ、御利用ください。

○近年、美術館が相ついで設立されています。また、文化行政においてソフトウェアの充実が強調されています。こうしたことから文化庁の主催により、「近現代美術専門研修会」が今夏、東京で開催されましたので、この実施、運営にあたられた三木企画官に「あらためて、美術館とは」を執筆していただきました。

○昭和五十七年度の在外研修員も決定し、これから出発する人もおります。また、これから在外研修員になることを希望する方もいるでしょう。澤本、島崎両氏の報告が、そういう方々を勇気づけてくれれば幸いです。

○芸術の秋、芸術祭もたけなわです。御多忙のところ、御執筆いただいた方々に御礼申し上げます。

(W)

「文化庁月報」十月号
（通巻第一六九号）
昭和57年10月25日印刷・発行
編集 文化庁
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号
発行所 株式会社 ぎょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
営業所 〒160 東京都新宿区西五軒町52番地
電話（〇三）二六八―二一四一（代表）
振替口座 東京 九―一六一番
印刷所 ㈱行政学会印刷所
定価 一八〇円（送料四五円）
年間購読料 二、一六〇円（送料共）

広告の問合せ・申込み先
株式会社 ぎょうせい 営業課
TEL（〇三）二六八―二一四一（代表）